

旅行取扱状況の概観（平成27年4月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト(KNT)とKNT個人旅行、クラブツーリズム、KNT北海道、KNT東北、KNT中国四国、KNT九州、ユナイテッドツアーズ、KNT商事の合算額となります。

記

海外旅行の取り扱い、一般団体は前年比70.2%、学生団体は同72.8%と前年を下回り、団体旅行合計で同70.7%と前年を下回った。企画旅行については同79.5%、個人旅行についても前年比88.0%と前年を下回った。

この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比80.1%と前年を下回った。

国内旅行の取り扱い、一般団体は前年比113.8%、学生団体は同107.9%、団体旅行合計では同110.1%と前年を大きく上回った。企画旅行についても同101.9%、個人旅行についても同117.1%と前年を上回った。

この結果、国内旅行総取扱額としては、106.0%と前年を上回った。

外国人旅行は、前年比97.2%と前年をやや下回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の4月の総取扱額は前年比98.2%となり、前年をやや下回った。

【主要会社の状況】

1. 近畿日本ツーリスト株式会社

海外団体については、一般団体は前年に大型の職場旅行や招待旅行を取り扱った影響で前年比70.6%と前年を下回った。学生団体は前年に大型の語学研修等を取り扱った影響により同72.8%と前年を下回った。この結果、海外団体旅行合計で同70.9%と前年を下回った。

国内団体については、一般団体は大型の企業系コンベンションや職場旅行を取り扱った影響もあり、前年比114.5%と大きく上回った。学生団体は取扱い団体本数の増加に伴い前年比107.9%と上回り、国内団体旅行合計で前年比110.4%と大きく上回った。

2. 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社

メイトは、取扱額で前年比108.4%と前年を大きく上回った。方面別取扱人数の状況では、北陸新幹線の影響もあり、北陸、信州方面が好調であったことに加え、関西、南紀、中国四国、九州方面が好調を維持している。

ホリデイは、各方面とも低価格帯商品のラインナップを縮小させた影響もあり全般的に不調であるが、取扱額でアメリカ、台湾など前年を超える方面も出てきており、復調の兆しも見え始めた。

3. クラブツーリズム株式会社

海外旅行部門は、アメリカ西海岸やオセアニアが好調に推移したが、イスラム国などの影響を受け全体的に取扱高が伸び悩み、取扱額で前年比81.5%と前年を下回った。

バス旅行を除く国内旅行部門は、北陸、善光寺、高野山、姫路城など話題の観光素材を活かした商品が好調であり同108.6%と前年を大きく上回った。

バス旅行部門は日帰り商品が好調であった一方で宿泊商品が不調であり同87.8%と前年を下回った。

テーマ旅行部門は、海外ひとり旅が外的要因等により苦戦したものの、付加価値の高い限定感のある商品の販売が好調に推移し、同113.0%と前年を大きく上回った。